

海外安全対策情報平成27年度第4四半期（1～3月）

1 社会・治安情勢

- (1) 1月4日、ソロラ県サンティアゴアティトランにおいて、殺人を犯した警察官への抗議のため市民4000人規模の騒動があり、警察庁舎、市庁舎が破壊された他警察車両2台が焼損し、また犯人の警察官が市民からリンチを受けるといふ事件が発生した。警察や司法への市民の信頼が低い事もあり、このような事件は度々発生している。
- (2) 3月6日、グアテマラ県サン・ホセ・ピヌーラ市（首都から東に約13km）において走行中の路線バスが爆発する事件が発生し、2名が死亡し、15名が負傷した。爆発したバスからはバッテリー、携帯電話及び配線が発見された事から、携帯電話を起爆装置とし、遠隔操作により爆破されたものと見られている。
- (3) 治安の悪さが大きな社会問題となる中、現政権は軍と警察の連携を図り、治安回復作戦を進めているが治安回復上の打開策とはなり得ず、また、犯罪組織同士の抗争も絶えない。
- (4) 対日感情については良好である。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 国家文民警察の発表によると、平成27年度第4四半期の当国における総犯罪発生件数は8,075件と前年度第4四半期の8,076件と比較し、ほぼ同数である。また、殺人件数は1,131件で前年度第4四半期の1,185件と比較し、54件減少（4.6%減）したが、傷害事件は1,660件で前年度第4四半期の1,415件と比較し、245件増加（17.3%増）した。外国人の強盗・窃盗被害は15件で前年同時期の13件とほぼ同数である。一般的に依然として治安回復の兆しは見られない。なお、犯罪種別の内訳は以下のとおり。

殺人	1,131件	（前年比	4.6%減）
傷害	1,660件	（	” 17.3%増）
強盗・窃盗	3,895件	（	” 1.6%減）
強姦	133件	（	” 14.2%減）
誘拐	15件	（	” 87.5%増）
行方不明	812件	（	” 11.1%減）
家庭内暴力	429件	（	” 2.9%減）

(2) 銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、平成28年1月～3月に治安当局が取り扱った殺人事件1,131件のうち、銃器を使用した事件は908件（全体の80.3%）、同じく傷害

事件1, 660件のうち銃器を使用した事件は864件(52.0%)に達する。殺人事件における銃の使用率は、引き続き80%を超えており、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇(巻き込まれる)する危険性は極めて高い。

(3) 邦人の被害事案

3月2日深夜、空き巣に侵入され、オーディオ機器(ミニコンポ及びキーボード)が盗まれる被害に遭ったが、犯行時は留守であり、人的被害は出なかった。

(4) 邦人以外の被害事案(代表的事例のみ)

ア 1月19日、グアテマラ市第10区において、路線バスの車掌が何者かに射殺される事件が発生した。

イ 1月22日、グアテマラ市第13区において、路線バスの運転手が何者かに射殺される事件が発生した。

ウ 2月1日、グアテマラ市第14区において、一般住宅に侵入した強盗が、警備に当たっていた民間警備員に対し発砲し、同警備員が負傷する事件が発生した。

エ 2月8日、グアテマラ市第13区の邦人も頻繁に利用するスーパーマーケット店内において、男性1名が射殺される事件が発生した。

オ 3月7日、グアテマラ市第6区において、商店に火炎瓶が投げ込まれ爆発し、3名が負傷する事件が発生した。

カ 3月28日、ソロラ県内の山道を走行中に、崖から約100m下に転落する事故が発生し、18名が死亡し、30名が負傷した。

3 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民や外国人がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人を含む東洋系外国人は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

日本企業内において労働条件等を巡るストライキ、衝突等は発生していないが、引き続き各種運動の動向には注意を要する。また、インターネットの普及により急速にグローバル化が進み、ソーシャルネットワークを使用した予期せぬ示威活動が行われる可能性もあるので注意が必要である。(了)